

# 世界漫遊特集 vol.17 2016年11月号

## フランス「コルス島」

文・亀澤 竜馬

皆さんはフランスにあるコルス島と言う島を聞いた事があるだろうか。地中海西部、イタリア半島の西に位置するが実はフランス領土と少し可笑しな気分になってしまう。そんなコルス島は面積が約8,680km<sup>2</sup>（広島県とほぼ同じ）、人口は約30万人もあり、フランス皇帝ナポレオン1世の出生地としても有名だ。

そんなコルス島には手つかずの大自然や歴史建造物、素晴らしい風景に美味しい料理といった魅力が満載である。

まず紹介するのはコルス島南部の街「ポニファシオ」。ここは空港から車で約30分の距離にあり、アクセスも便利だ。実際に何百万人の観光客訪れている。もちろんアクセスが良いだけで人が来たわけではない。写真を見て分かるようにターコイズ色の海岸と石灰岩の断崖絶壁の上に広がる旧市街が幻想的である。そのためポニファシオは「天空の街」と呼ばれている。



他にもポニファシオには港があり、毎週火曜日の午前中には「マルシェ」が開かれている。地元の特産品が売られており、他では手に入らない品物を見て、味わい、買う事ができるのももちろん、何があっても週に一度の集いを欠かさないと言われている地元民と触れ合えるチャンスではないだろうか。



西部の方には「スカンドラ自然保護区」がある。ここは世界遺産にも認定されており、赤い花崗岩の切り立った断崖が続き、荒々しい自然景観だ。さらに驚きな事にこの花崗岩は2億5千年前から存在している。まるでタイムスリップに陥った気分だ。



他にもカラフルで古くてかわいい街「バステイア」や島で取れた海の幸・山の幸など一度では味わい足りない、そんなコルス島に是非とも足を運んでいただきたい。

